



## 『自然に学ぶ』？『自然から学ぶ』？

### 木にカエルの卵。えー、本当なの！？



例年より10日早く梅雨入りとなりましたが、その後は、ほとんど雨が降らず天気恵まれた自然学校となっています。活動をするにあたって、晴れの日が続くことほどありがたいことはありませんが、動植物にとっては、「雨」が必要な場合も当然あります。

南但馬自然学校のホームページに、「自然のページ」があり、5年前に『南但馬自然学校の山沿いにある池で、モリアオガエルの産卵が始まりました。今年、初めてソフトボールほどの白い卵の塊（かたまり）を見つけたのは、5月21日のことでした。その後日に日に増え続け、今では50個以上にもなっています。この白い塊のことを、卵塊（らんかい）と呼び、卵を保護する役目を持っています。そしてこの卵塊の中に産み付けられる小さな黄色い粒が卵です。・・・以下省略』と掲載しています。今年もその時期がやってきたのです。



5月28日、宝塚市立宝塚第一小学校の子どもたちが、くまコースの途中にある雨乃宮の池で、モリアオガエルの卵を観察しました。そして、翌日の後半のグループは、南但馬自然学校の職員からモリアオガエルの卵の説明を受けてからの朝来山登山となりました。子どもたちは、木にぶら下がっている卵を見て、大変驚いていました。**普段、見ることのない『自然の不思議』を改めて発見することが出来ました。**

### 木・竹の伐採体験！

指導課だよりの創刊号で説明したように、平成23・24年度の調査・研究委員会の原体験調査結果から、子どもたちの「木体験」が不足していることが明らかになりました。そこで、本校では、生えている木や竹などの立木を切り倒す活動を進めています。

それらの活動を実施した、たつの市立河内小学校、加西市立北条小学校、加西市立北条東・富田小学校連合の3グループの様子を紹介します。

まず、河内小学校ですが、初日に「ひのきの伐採体験」を行い、3日目の「野外炊事」でひのきの端材を薪として使用し、5日目の「クラフト」で丸太を使った置物やペンダント等、創作工夫を凝らした作品を仕上げていました。全員の力を合わせて切った「1本のひのき」を素材に、**自然学校実施期間中における「学び」の連続性を踏まえたプログラム構成**となっていました。



子どもたちは、野外炊事で、パチパチとひのきの燃える音を聞くなど、大変貴重な経験をするとともに、本校の薪を使用せず自分たちだけの力で野外炊事を終えたことに対して、大変

満足を得ることが出来ていたようでした。



次に、加西市立北条小学校ですが、初日に「竹の伐採体験」を行い、2日目には「クラフト」で「マイ竹箸づくり」に取り組みました。

子どもたちは、小刀で竹を削り、紙やすりできれい磨いていました。3日目の野外炊事でのサラダに、その「マイ竹箸」を使用するという



一連の流れがあり、子どもたちに「マイ竹箸」を作る目的をはっきりと理解させられていました。



最後に、加西市立北条東・富田小学校連合ですが、2日目に「木から学ぼう」という活動に取り組みました。事前説明会で試行的に進めた活動ですが、参加された担当者が、「木を観察してその特徴から、木の高さや樹齢を考え、立木を切り倒し、実際に年輪を調べる原体験を通して、自然に親しむ心情を育てる」というねらいに共感され、ぜひとも、子どもたちに体験させたいという思いから実施されました。

#### ☆子どもたちの感想より（一部抜粋）☆

- ・木は年輪で年が分かっていて、見ただけで分かるなんて思っていなかったので、とても勉強になりました。
- ・わたしは、木の年齢を調べるのに幹を切って、年輪を調べる方法を知れたので、もっといろいろな木の年輪を調べてみたいと思いました。
- ・木を切らなくても、年れいが分かるので、びっくりしました。実際に、木を切って年れいを数えたら、そのとおりであったので、さらにびっくりしました。

## 第2回遊友体験活動事業参加者募集中！



7月13日（土）の午前に、第2回の遊友体験活動事業「見つけよう！さわろう！いろいろな生き物～森の生き物さがし～」を実施します。

昨年度は、朝来市に明け方まで大雨警報が発令される悪天候でしたが、113名も



の参加者がありました。観察ポイントの「雨乃宮の池」では、子どもたちは「メダカ」「アメンボ」「イモリ」「モリアオガエルの卵」「ゲンゴロウ」「ナメクジ」などを見つけ、大変喜んでいました。大屋根広場に戻って来た時に採集した生き物を見せ合って自慢をしている姿は、とても子どもらしく印象的でした。今年も、たくさんの参加をお待ちしています。

詳しくは、南但馬自然学校のホームページをご覧ください。

#### 編集後記

本校校長が、「南但馬自然学校では、自然を学ぶのではなく、自然に学びましょう」と、入校式での挨拶で言うことがあります。「自然を」と「自然に」の「を」と「に」の一字違いですが、全然とらえ方が違います。今回は、そんなことを意識して、「指導課だより」を作成しました。

（文責 主任指導主事兼指導課長 北條 勝也）